

## 2016年の種子生産農家へのモニタリング調査

2017年2月から3月にかけて、昨年研修した中核農家（種子生産農家）に対して、2016年の種子生産状況や移転技術の適応状況を確認するために直接農家を訪れて調査を行いました。HBs州、BM州合わせて計25グループから回答を得ました。一番多いグループで494kg/haの収量を上げており、平均収量は233kg/haでした。移転技術に関し、栽培技術は概ねプロジェクトの指導に沿って行われたことを確認しましたが、農薬の用量や、種子保存のための薬品の使用に関しては守られていないグループが多く、課題としては25グループ中21グループが収穫した種子を認証登録せずに一般のゴマ子実として販売してしまったことでした。なぜ販売してしまったのか、原因を探り、今年はそうならないように対策を検討していきます。

## 第3回合同調整委員会の開催

4月14日（金）、ブルキナファソの首都ワガドゥグの農業・水利省（MAAH）農村経済振興総局（DGPER）内会議場において、「ゴマ生産支援プロジェクト」の第3回合同調整委員会が開催されました。議長は同省次官代理が務め、DGPER総局長や関係各局の代表者、輸出業者の代表者の他、JICAブルキナファソ事務所からも小林所長、笹部職員、星野企画調査員らが参加し、プロジェクトからは中垣総括他5名が参加しました。

今回の委員会での主要な議題は2017年の業務計画と予算の承認です。プロジェクトからそれらを説明し、質疑応答の末、参加メンバーの合意を得ました。



写真6：合同調整委員会の様子。



写真7（左上から）：①左から小林所長、次官代理、DGPERのウエドラオゴ局長、②質疑応答に答える中垣総括（左から2人目）やDGPERのザングレ課長（右）、③プロジェクトの活動計画を説明する中垣総括、④質問する会場の様子。

### ブルキナファソ国ゴマ生産支援プロジェクト

プロジェクト事務所  
03 BP 7123 Ouagadougou 03, Burkina Faso  
Tel: +226-67-37-59-80  
Email: projetsetesame@yahoo.fr  
http://www.jica.go.jp/project/burkinafaso/005/index.html

### 編集室より

JICA長期専門家として2年間、当プロジェクトに従事してきた菊田専門家が2017年4月に任期満了を迎え離任しました。菊田専門家、2年間お疲れ様でした。菊田専門家は6月より、当プロジェクトのコンサルタントチームに加わり、主にモニタリングの業務に関わる予定です。今後のプロジェクトは、1名のJICA長期専門家と8名のコンサルタントチームにより進めていきます。

# ブルキナファソ国 ゴマ生産支援プロジェクト ニュースレター



ブルキナファソ国 農業・水利省

独立行政法人 国際協力機構 JICA

## 全23サンプルが基準値以下 —ブルキナファソ産ゴマサンプルの残留農薬検査の結果—

イミダクロプリドの残留性を調べるために、ゴマ買い取り業者であるVelegda社にも協力してもらって、2016年11月から12月にかけてブルキナファソ全国のゴマ生産地から23サンプルを収集しました。これは流通業者へ販売する前の農家の所有するゴマです。その分析を日本食品分析センターに依頼し、2017年3月27日付で結果を入手しました。

結果は、全サンプルともイミダクロプリドの残留値が日本の基準である0.01ppmを下回っていました。21サンプルからはイミダクロプリドは検出されず、バンフォラ（Banfora）とテンコドゴ（Tenkodogo）のサンプルからはごく微量のイミダクロプリドが検出されましたが（バンフォラが0.006ppm、テンコドゴが0.009ppm）、これは基準値以下でかつ数値が小さいため科学的信頼値としては扱えないもので、あくまで参考情報とのことです。

サンプル数は少ないながらも、農家での生産段階ではイミダクロプリドの基準値以上の混入はありませんでした。しかし、ゴマの流過程でもイミダクロプリド汚染の可能性が否定できないため、プロジェクトでは全国の流通拠点となっている地方都市12カ所の中規模の中間業者からもゴマサンプルの収集をして日本に持ち帰り、現在その分析の依頼中です。

表1：ゴマサンプル（生産段階）の収集地

| No | 州                       | 地名                       |
|----|-------------------------|--------------------------|
| 1  | Hauts-Bassins           | Satiri (Bobo-Dioulasso)  |
| 2  | オー・バッサン                 | Kadomba (Bobo-Dioulasso) |
| 3  |                         | Orodara                  |
| 4  | Bouloukouba             | Dedougou 1               |
| 5  | Bouloukouba             | Dedougou 2               |
| 6  | ドゥ・ムーン                  | Magnimasso               |
| 7  |                         | Boromo                   |
| 8  | Cascades                | Banfora                  |
| 9  | カスカード                   | Niangoloko               |
| 10 | Centre Est              | Tenkodogo                |
| 11 | 中東部                     | Koupela                  |
| 12 |                         | Kaya 1 (PRPS-BF site)    |
| 13 | Centre Nord             | Kaya 2                   |
| 14 | 中北部                     | Boulsa                   |
| 15 | Centre Ouest            | Koudougou                |
| 16 | 中西部                     | Leo                      |
| 17 | Centre Sud              | Pô (PRPS-BF site)        |
| 18 | 中南部                     | Manga                    |
| 19 |                         | Fada                     |
| 20 | Est                     | Bogande                  |
| 21 | 東部                      | Kompienga                |
| 22 | Plateau Central<br>中央大地 | Zorgho                   |
| 23 | Nord 北部                 | Ouahigouya               |

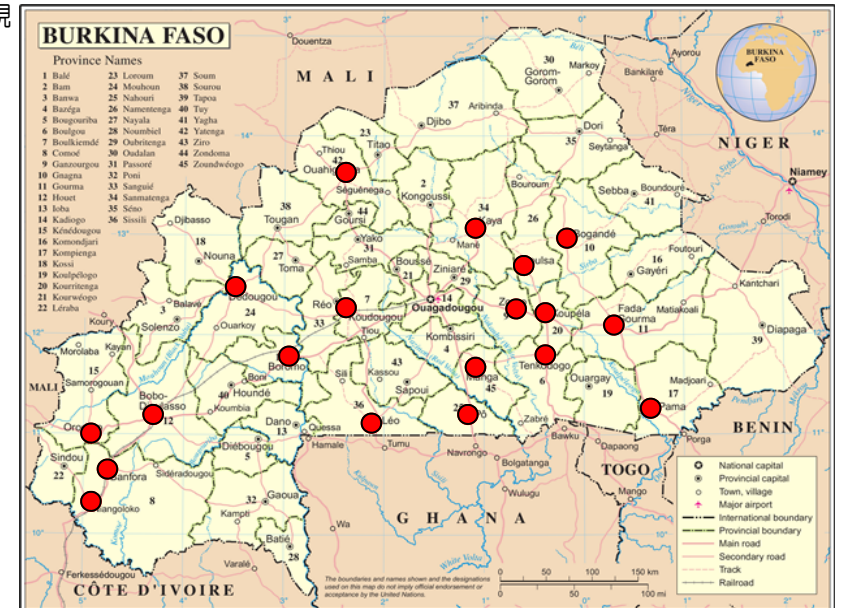


図1：ゴマサンプル（生産段階）の収集地  
地図引用：United Nations Cartographic Section（プロジェクトチーム編集）

### 目次：

- 全23サンプルが基準値以下—ブルキナファソ産ゴマサンプルの残留農薬検査の結果—
- 2017年の中核農家への研修が開始
- ゴマの各種試験の開始
- 選別作業用篩の試作品製作
- 2016年の種子生産農家へのモニタリング調査
- 第3回合同調整委員会の開催

## 2017年の中核農家への研修が開始

2017年の中核農家への研修を開始しました。2017年の中核農家は、ブックル・デュ・ムーン（BM）州から36名（18の農家グループから各2名）、オーバッサン（HBs）州から30名（15の農家グループから各2名）を選定しており、この中核農家からそれぞれのグループの農家に広めていく予定です。研修は大きく分けて、種子生産研修（理論・実践）、FFS\*研修（理論・実践）、FBS\*研修（理論・実践）、組織強化研修の4種類を実施する予定です。

\*それぞれ、FFS=Farmer Field School（農民圃場学校）、FBS=Farmer Business School（農民経営学校）の意味。

### • 種子生産理論研修

中核農家として種子生産をできる農家に育成すべく、プロジェクトでは種子生産研修を実施することにしています。研修は理論と実践があり、まずは理論研修をHBs州で2月8・9日、BM州で2月15・16日に実施しました。この研修は国立環境農業研究所（INERA）と共に実施したもので、研修修了者には公的な修了書が発行されます。これを持って、種子生産農家として国に登録することが可能になります。今回、計65農家が修了書を受領することができました。



写真1（左から）：①HBs州での研修の様子。②BM州で研修終了後にINERA講師から修了書を手渡している様子。

### • FFS/FBSファシリテーター理論研修

プロジェクトでは中核農家をFFS/FBSのファシリテーターとして育成することを目的として、FFS/FBSファシリテーター研修を実施することにしています。この度、そのうちの理論研修を4月25～27日にHBs州で、5月9～11日にBM州で、それぞれ実施しました。研修では、ゴマの栽培手順の確認から始まり、FFSの考え方や運営の仕方、FBSでは農家経営の考え方などを学びました。今後はゴマ栽培時期（6～12月）に合わせて実践研修を計7回開催する予定です。



写真2（左から）：①HBs州での研修の様子。②BM州での研修の様子。グループごとに生産者圃場の現状を議論。

## ゴマの各種試験の開始

### • 防虫試験

散布農薬の種類とその防虫効果に関する検証のための試験圃場をマコニャドゥグ（HB州都のボボデュラッソから東に50km）に設置しました。生育スケジュールの異なる3品種を用いて、4通りの散布スケジュールを検証する予定です。2月8日に播種を行い、順調に生育しています。



写真3：無農薬区で、莢果に入り種子を食べる虫（未特定）の被害を受けたゴマ。

### • 候補品種の特性調査試験



写真4：ガンペラの試験圃場。食害を受けたが、残りの半数で試験を継続している。

新品種登録に向けて候補品種の特性調査のための試験圃場をガンペラ（首都ワガドゥグ市内）とマコニャドゥグに設置しました。INERAが管理するガンペラ圃場では、ブルキナファソ品種、ナイジェリア品種、富山大品種などの計36品種の白ゴマを、マコニャドゥグ圃場ではブルキナファソ国内から分離した黒ゴマ8品種を取り扱います。ガンペラ圃場では2月20日に、マコニャドゥグ圃場では2月9日に播種を行い、順調に生育しています。ただし4月に入ってガンペラ圃場では警備員のいない夜間に牛が二重柵を破って侵入し、約半分の品種が食害を受けたため、同圃場では残る品種のみで試験を継続することにしました。

## 選別作業用篩の試作品製作



写真5（左から）：①製作した試作品、45(W)×45(L)×15(H)cm、②2人で使用可能とした試作品。

ブルキナファソの一般的な農家がゴマの乾燥・選別作業に利用する農具は極めて貧弱で作業能率の低下を招き、作業時のシートの不使用とともに収穫後のロス増大、汚れ、ゴミ等異物混入の要因になっています（写真6）。そこでプロジェクトではテストを実施し、網目のサイズの異なる2種類の篩（2.5mmと1.5mm）を製作しました。2.5mmの篩でまずゴマより大きな夾雑物（朔果・茎葉くず・石等）を篩に残し、ゴマを篩の下に落下させます。続いて1.5mmの篩によりゴマを篩に残し、ゴマより小さな夾雑物（主に砂）を篩の下に落下させることで、大小の夾雑物を取り除くことが可能になります。製作費は材料費を含めて一つ当たり約4000～8000FCFA（約800円～1600円）と農民にも手が届く価格であり、選別作業における労働力・労働時間の削減およびポストハーベストロスの改善効果を勘案すると十分な費用対効果が望めます。プロジェクトでは研修を通じて効果を実感してもらい、一般農家の間に広めていく予定です。



写真6：①（左上）プラスチックのたらいに穴開け加工した一般農家が利用する篩（ふるい）、②篩を使わずに、ボウルをゆすって大きな夾雑物を取り除き（左下）、風選する（右）のも一般的な方法。夾雑物はかなり残ったままになり、ロスも多い。